

# サヘル地域における援助団体による自然災害後の支援事業の

## 地域住民への影響

——ブルキナファソ北東部マルコイ郡の事例から——

平成 13 年度入学

派遣先国：ブルキナファソ

派遣先機関：Opération Oasis Sahélienne

石本 雄大

キーワード：穀物・家畜の価格変動，サヘル地域，自然災害，住民への影響，食料援助

### 派遣先機関の概要

Opération Oasis Sahélienne（以下 OOS とする）は，ブルキナファソ北東部に位置するウダラン県，セノ県で活動するローカル NGO である。彼らは地域住民の生活改善，特に水環境の改善を目標に，井戸設置・補修，環境教育や，植林活動，緊急時の食料援助などを主な活動にしている。全スタッフがブルキナファソ人によって構成され，本部のある首都ワガドゥグは代表のバドゥーン・シビリ氏（写真 1），ウダラン県マルコイ郡およびゴロムゴロム郡北部はアマドゥ・モハマドゥ氏，ウダラン県ゴロムゴロム郡南部およびセノ県ファラグントゥー郡はジベイ・ユニン氏が担当している。

1992 年，国際 NGO でフランスに本拠地を置く Eau Vive の資金援助を受け，バドゥーン氏がマルコイ郡マルコイ町，ゴロムゴロム県ダルコイ村で最初の活動を開始した。その後，年々，対象地域を拡大し，現在は合計 20 ヶ村ほどで活動を行っている。



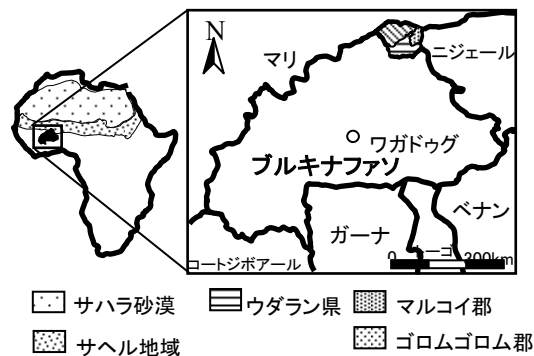
写真 1 OOS 代表バドゥーン氏

### 派遣先志望動機と，派遣前に設定した目標について

サヘル地域では 6 月から 9 月頃までの雨季中の降水量は 150–500mm 程度と極めて少ない。降雨は不安定で，降水量・降雨パターンは年ごとに大きく変動する。また，砂漠バッタの大量発生も時に起きる。したがって，食料生産は不安定で，自然災害時には生産量が著しく低下する。

報告者は，2004 年にサヘル地域の多くの国々で起こった早魃と砂漠バッタの大量発生が原因の食料危機に，ブルキナファソ北東部のマルコイ郡 I 村に住む農牧民ケル・タマシェクがいかに対処したかについて報告した [石本 2006]。しかしながらこれまで行ってきた調査の中で，住民による生計活動と公的機関・民間団体からの支援事業との関係についての分析は不十分であった。

本派遣の目標は，調査地域マルコイ郡での OOS や他



第1図 調査地域

の組織による自然災害時の支援活動には、こういった食料援助があるかを調査し、それらの活動の住民への影響について考察することである。

### 派遣期間中の活動について

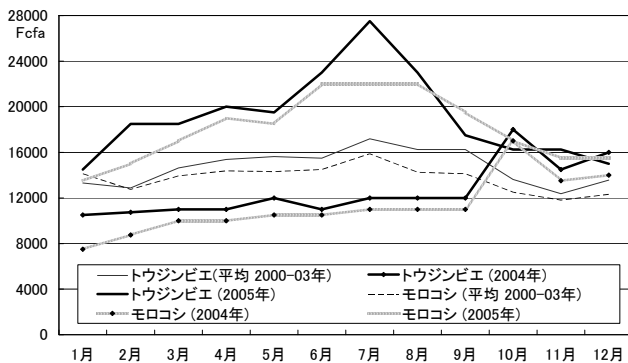
今回のインターン派遣における活動は、首都ワガドゥグから北東約 300km に位置するマルコイ郡で主に行った（第 1 図）。

まず、食料援助について把握するため、2004-05 年に実施した団体に聞き取り調査を行った。第 1 表は、2004-05 年にマルコイ郡内で食料援助を行った団体名、援助を行った月、量、販売価格などを示したものである。全体の 6 割以上を PDL/UDL \*<sup>1</sup> からの援助が占めていた。

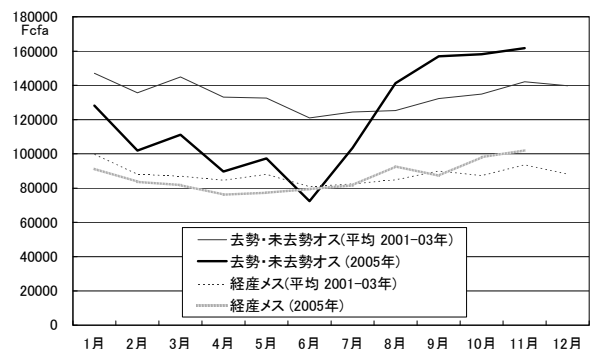
団体名	作物	実施月	申請・支払い月 (PDLのみ)	総量 (t)	販売価格 (Fcfa/kg)	支援地
ブルキナファソ政府	トウジンビエ	2005年6月		20	110	マルコイ郡
Programme de développement local de l'Oudalan (PDL/UD)	トウジンビエ	2004年11月	2004年11月、1期	105	100	マルコイ郡
Programme de développement local de l'Oudalan (PDL/UD)	トウジンビエ	2006年7月8月	2005年5月末6月頭、2期	134	110	マルコイ郡
Amis du Sahel	トウジンビエ	2004年12月		50	100	マルコイ町
Amis du Sahel	トウジンビエ (播種用)	2004年12月		10	無償	マルコイ町
Opération Oasis Sahélienne	トウジンビエ	2004年12月		28	50	ティンボソコ村、タカバンダ村、イシャガルニ村
Opération Oasis Sahélienne	ササゲ	2004年12月		1	無償	カザ村
l'Union des Caisses d'épargne et de crédit du Sahel	トウジンビエ	2004-05年		20	125	マルコイ郡
赤十字	トウジンビエ	2004-05年		3	無償	マルコイ
Eglise des Assemblée de Dieu, Markoye (教会、プロテスタ)	トウジンビエ	2004年11-12月		6.5	無償	マルコイ郡

また、食料援助の影響を探るため、穀物価格および家畜価格について調査を行った。穀物価格は農業省マルコイ支局にて、家畜価格は畜産省マルコイ支局では取り扱っていなかったために隣接郡のゴロム支局にて聞き取りを行った。この年、ゴロムゴロム郡で葉マルコイ郡と同様に自然災害が発生し、PDL/UDL や政府による食料援助が行われた。そのため、両郡の家畜価格には同様の傾向がみられたと考えられる。

第 2 図は 2004-05 年の穀物価格の変動を見るため、主食作物であるトウジンビエとモロコシの価格を、2000 年から 2003 年の平均、2004 年および 2005 年と示したものである。この図を見ると 2004 年 11 月、2005 年 8-9 月に両穀物の価格が下落したことがわかる。前者は PDL/UDL の配布第 1 期のため、後者はその第 2 期と穀物の収穫開始のためであろう。



第2図 穀物価格の比較

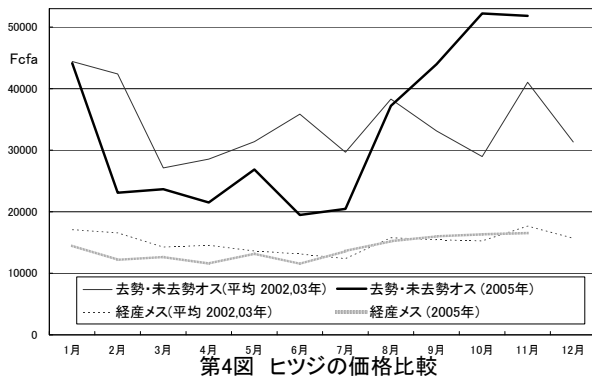


第3図 ウシの価格比較

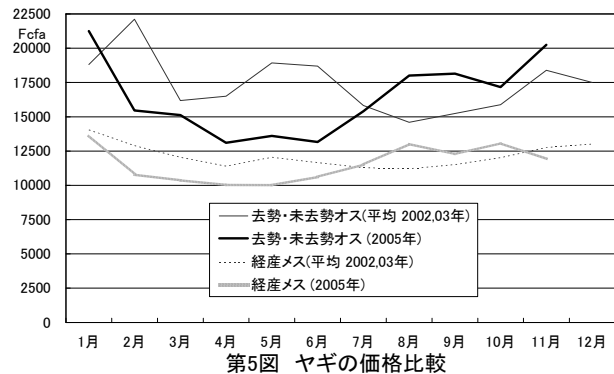
2004-05 年の家畜価格の変動を見るため、第 3 図ではウシの価格を 2001 年から 2003 年の平均および 2005 年、第 4 図ではヒツジの価格を 2002 年と 2003 年の平均および 2005 年、第 5 図ではヤギの価格を 2002 年と 2003 年の平均および 2005 年と示した。2004 年の値は欠損が多かったため除外した。いずれの家畜価格も、1 月のイスラムの犠牲祭が原因の天井値以降、6 月まで下がり続け、その後は上昇した。この 1 月から 6 月までの価格下落は、穀物購入のため家畜を販売するものが多く、家畜の供給が需要を上回り続けたためであろう。それが、6 月初頭の PDL/UDL の申し込み・支払い以降、穀物購入が一段

\*<sup>1</sup> Programme de développement local de l'Oudalan

落し、家畜販売が市場全体で減少したため、6月以降は価格が上昇したのであろう。



第4図 ヒツジの価格比較



第5図 ヤギの価格比較

食料援助は、不足した食料を補うという直接的な効果だけではなく、穀物価格の高騰や家畜価格の下落を抑えるという効果も果たしていたといえるであろう。

### 派遣先で印象に残った体験や経験

OOSに派遣され、様々な活動の話聞くうちに強く感じたことは、活動資金確保の難しさについてである。

OOSは、活動資金のほぼ全てを、活動開始当初から現在に至るまで、国際援助機関（現在は、Eau Vive だけではない）からの支援でまかなっている。それは、OOSが自ら立案した事業の実施、援助機関の事業の代行に対し、提供される。

もし、援助機関から活動資金の提供が止まってしまえば、活動の継続は困難であろう。そのため、自らの方針による一貫した活動を継続していくためには、今後、独自の財源確保の方策についても模索することが必要ではないだろうか。

### 目標の達成度や反省点について

達成度：本派遣の目標とした、援助組織による自然災害時の食料援助については、2004-05年にマルコイ郡で行われた全ての活動について把握が出来た。

それらの活動による住民への影響については、まだ資料を整理しきれていないため、今後はそれらを整理し、考察していく。

反省点：食料援助の聞き取りのために、予定より大幅に多い時間を費やしてしまった。

石本雄大. 2006. 「サヘル地域の旱害・虫害下における農牧民の対処—ブルキナファソ北部I村における食料獲得活動—」『日本砂丘学会誌』53(2)：55-68.